財布



組(

「あれまあ、私の薬がないわ。|

おばあちゃんの声が聞こえたので、カズキはおどろいた。

「あと2週間分あったんじゃないの。あの薬がないと、大変 じゃないか。

「昨日のゴミと一緒に捨てちゃったのかもしれないねえ。」

おばあちゃんは病気を持っている。その薬がなければ、夜 中に発作が起こってしまう。前にお医者さんは「こういう発 作が命取りになるから。必ず毎日薬を飲んでください。」と 言っていた。

病院は遠いので、いつもはお父さんやお母さんがもらって きている。よりによって、2人とも仕事で家にいない。

カズキは時計を見た。4時だ。病院は5時までだから、ギ リギリ間に合うかもしれない。

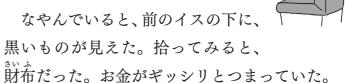
[おばあちゃん。ぼくがもらってくるよ。]

「本当かい。すまないねえ。気をつけて行っておくれよ。」 バス停までかけていって、とび乗った。しばらく進んだと ころで、思い出した。

「あっ!」がっただれた!」

急いで出てきたものだから、財布を置いてきてしまった。

幸い、バス代だけはリュックのポ ケットに入っていた。でも、お金が はらえないのでは、薬ももらえない。 とはいえ、今から引き返したとすれ ば、病院は閉まってしまう。



これがあれば、おばあちゃんの薬は買える。お金は後から 入れ直して、それから交番へ届ければいいじゃないか。

でも――。カズキは、財布をジッと見つめた。

書きましょう。

カズキは、どうするべきでしょうか。あなたの考えと理由を

話し合って考えたことを書きましょう。